

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	市民文化スポーツ局市民部地域振興課
評価対象期間	23年4月1日～24年3月31日

1 指定概要

施設概要	名称	北九州市旧古河鋳業若松ビル	施設類型	目的・機能
	所在地	若松区本町一丁目11番18号		
	設置目的	地元住民・団体、地域行事等との連携を図りながら、交流・文化・観光拠点として広く活用する。		
利用料金制		非利用料金制 ・ <u>一部利用料金制</u> ・ 完全利用料金制		
		インセンティブ制 有・無	ペナルティ制 有・無	
指定管理者	名称	中央興産株式会社		
	所在地	若松区浜町一丁目19番9号		
指定管理業務の内容		(1)管理運営に関する業務 (2)管理施設の使用許可に関する業務 (3)管理施設の使用に係る利用料金の徴収に関する業務 (4)管理施設及び備品等の維持管理に関する業務 (5)利用者、来館者の案内及び説明に関する業務 (6)利用促進に関する業務 (7)その他、市が必要と認める業務		
指定期間		21年4月1日～26年3月31日		

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント			
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み			
(1) 施設の設置目的の達成			
計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。			
市の政策を支援することが業務内容に付加されている場合、政策支援が十分に図られたか。			
利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取り組みがなされ、その効果があったか。			
複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。			
施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。			
[所 見]			
施設の設置目的に沿う地元住民・団体、地域行事等との連携を図った管理運営や自主活動を積極的に推し進めた結果、来館者は、当初の目標（50,000人）を大きく上回り、前年度比で10.4%増加した。			
	平成 22 年度	平成 23 年度	増 減
館利用者	34,641 人	33,766 人	875 人
見学者	24,264 人	31,293 人	7,029 人
来館者(合計)	58,905 人	65,059 人	6,154 人
「登録クラブ制度」により利用促進を図り、その取り組みを継続して行っている。団体観光への観光ルート提案、バス駐車場確保、観光ボランティアの育成など、観光客を受け入れるための様々な取り組みを行い、見学者の大幅な増加につながった。市民センター等の公共施設への出前講演、区政行事への参加、小学生向けの行事開催など積極的に取り組み、地域に根ざした活動を行った。			
区政番組やマスコミへの取材協力、独自広報誌の発刊など、効果的な広報活動により、認知度も向上している。			
(2) 利用者の満足度			
利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。			
利用者の意見を把握し、それらを反映させる取り組みがなされたか。			
利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。			
利用者への情報提供が十分になされたか。			
その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取り組みがなされ、その効果があったか。			

[所 見]

利用者アンケート等の結果、無回答者を除き施設利用の感想は、96.4%が利用しやすいと回答しており、職員の対応についても、99.8%が良かったと回答している。

イベント情報等を館内掲示するに留まらず、広報紙発行やマスコミへの情報提供等により、広く情報提供に努めている。

2 効率性の向上等に関する取組み

(1) 経費の低減等

施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取り組みがなされ、その効果があったか。

清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。

経費の効果的・効率的な執行がなされたか。

[所 見]

予算書の歳出見込額と決算書の歳出実績額を比較した場合、0.6%減少している。

平成23年度	予算書	決算書	増 減
歳出額	10,845,000 円	10,777,229 円	67,771 円

歳出額を前年度と比較した場合、4.0%減少している。

	平成22年度	平成23年度	増 減
歳出額	11,222,636 円	10,777,229 円	445,407 円

維持管理費を前年度と比較した場合、11.5%減少している。

	平成22年度	平成23年度	増 減
施設維持管理費	3,499,716 円	3,096,078 円	403,638 円

(2) 収入の増加

収入を増加するための具体的な取り組みがなされ、その効果があったか。

[所 見]

来館者にコーヒーの提供、お土産の販売を行うことや定期利用者や観光客に対する集客対策のほかイベントを積極的に開催するなど、施設利用者の増加と施設利用料の増収を図るための取り組みが行われている。

予算書の収入見込額と決算書の収入実績額を比較した場合、0.01%減少した。

平成23年度	予算書	決算書	増 減
歳入額	10,845,000 円	10,843,838 円	1,162 円

利用料金収入は、前年度と比較した場合、2.1%減少した。

	平成 22 年度	平成 23 年度	増 減
利用料金収入	3,107,990 円	3,043,590 円	64,400 円

3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み

(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況

施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。

職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。

地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。

[所 見]

施設の管理運営にあたり人員は適切に配置されていた。

職員の資質・能力向上を図る取組みについては、人権学習や暴行対策等の職員研修の実施など、必要な水準の確保が図られていた。

地域や関係団体との協働については、各種連絡会議への出席のほか、地域への出前講演や区政番組への協力などを積極的に行っている。

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など

施設の利用者の個人情報を守るための対策が適切に実施されているか。

利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。

利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。

施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。

日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。

防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。

事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。

[所 見]

個人情報の保護に関しては、プライバシーポリシーを提示し、個人情報を利用する際は必ず施設利用者の承認を得るなど、必要な取組みがなされている。

適切な会計事務を行っており、問題はない。

消防訓練の実施を含めた防火対策や防犯、安全対策に努めて、事故などの発生は、報告されていない。

【総合評価】

[所 見]

積極的な各種の取り組みが、大きな効果を上げている。

端的な数値である「来館者数」は増加しており、「利用料金収入」も前年度とほぼ同水準で推移している。「施設維持管理費」については、節電への取り組み等によりコスト削減がされており、指定管理者の手腕が高く評価される。

また、前年度に火野葦平没後50年記念事業で作成した「あしへいマップ」を利用した観光案内や鉄道120年記念ウォークなどの町歩きを開催するなど、地域のにぎわいづくりに積極的に取り組んでいる。

さらに、若松の近代化産業遺産の調査研究などにも取り組んでおり、次年度以降についても成果が期待される。

[今後の対応]

引き続き地域や他団体との協働を進め、多彩な事業を実施するとともに、若松の交流・文化・観光拠点として広く活用していく。